

重慶市と友好交流20周年



水戸市と重慶市(中華人民共和国)は友好交流都市を提携し、20年の節目を迎えました。これまでの交流の軌跡を振り返ります。
問合せ/市国際交流協会(☎221-1800)

重慶市との出会い

昭和60(1985)年、中日友好協会の孫平化副会長(当時)が水戸市を訪れたときに交流の提案があり、翌年には水戸市から重慶市に訪問団を派遣しました。両市の友好が深まったのは、平成5(1993)年の「全国都市緑化いばらきフェア」でした。千波公園を中心に開催され、水戸市は、重慶市人民政府などの協力により「恐竜館」を出展。恐竜館は多くの入場者を集め、都市緑化フェアの成功に大きな役割を果たしました。

これを契機に相互の訪問団派遣などの交流が進み、平成12(2000)年6月に使節団を重慶に派遣し、友好交流都市提携合意書の調印を行いました。

交流のあゆみ

水戸市は重慶市への訪問団を7回派遣し、重慶市から9回の訪問団を受け入れるなど、市民同士の交流を深めています。このうち、青少年の交流では、日中国交正常化を記念した中国での卓球大会に重慶市と合同チームを組み参加したり、両市の小学生の絵画や書道作品を市国際交流センターなどで展示したりしました。

また、令和2(2020)年2月には、中国での新型コロナウイルスの感染拡大に際して、重慶市で不足したマスクをいち早く水戸市が寄贈。その後水戸市で感染症が拡大すると、同年6月、重慶市から「感謝の気持ちは忘れません、今後も長いお付き合いを願います」という詩とともに医療用支援物資が寄贈されました。

都市交流は、人と人が心を通わせ合う交流の積み重ねです。今後も末永く交流を続けていきます。



都市緑化フェアの恐竜館では、重慶自然博物館が所蔵する巨大な恐竜の全身骨格や足跡、卵の化石などを公開しました。



友好交流都市提携合意書に署名する岡田広水戸市長と包叙定重慶市長(いずれも当時)。合意書は、市国際交流センターに展示しています。



平成29(2017)年の日中友好交流都市中学生卓球交歓大会。宿泊先では日中の選手同士がトランプなどで交流しました。



重慶市から赤外線体温計、防護服、高性能医療用マスクが寄贈され、医療機関や市の施設などで活用されています。

重慶市ってこんなところ

重慶市は、3,000年以上の歴史を持つ古都で、北京・天津・上海とともに中国政府の直轄市の一つです。中国西南部の商工業の中心地で、人口は直轄市として最も多い約3,100万人です。

現在の重慶が分かるプロフィール動画を市ホームページで公開しています。



長江三峡では雄大な景観が楽しめます

